

抗酸菌感受性検査薬剤変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、結核菌の薬剤感受性試験を考える場合には、結核菌と非結核性抗酸菌に分けて検討する必要があることから、この度弊社では発育が認められた菌が非定型抗酸菌の場合、薬剤の種類を下記のように変更させていただくことに致しましたので、取り急ぎご案内申し上げます。結核菌群につきましては従来通り変更はありません。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

変更内容

コード	検査項目	結核菌群	非定型抗酸菌群 ^{注)}	備考
		間接法(比率法)	液体培地希釈法	
70	抗酸菌感受性検査	SM(ストレプトマイシン) INH(イソニアジド) RFP(リファンピシン) EB(エタンブトール) KM(カナマイシン) EVM(エンピオマイシン) TH(エチオナミド) CS(サイクロセリン) PAS(パラアミノサリチル酸) LVFX(レボフロキサシン)	SM(ストレプトマイシン) EB(エタンブトール) KM(カナマイシン) RFP(リファンピシン) RBT(リファブチン) LVFX(レボフロキサシン) CAM(クラリスロマイシン) TH(エチオナミド) AMK(アミカシン)	総合検査のご案内 92頁

注)：迅速発育菌を除く

実施期日

- 平成28年6月1日から培養で発育が認められた分より

報告形式は裏面をご参照ください

結核菌報告形式

.....

従来通りの報告形式となります。

規定薬剤濃度における発育の有無を、発育しなかった場合は「S(感性)」
発育した場合は「R(耐性)」とご報告いたします。

非定型抗酸菌群報告形式

.....

最小発育阻止濃度(MIC)でのご報告となります。

また、MIC 参考判定カテゴリーのあるものは「S(感性)」、「I(中間)」、「R(耐性)」を表記致します。

MIC 参考判定カテゴリーのない薬剤については、判定記載部分が空欄となります。

MIC 参考判定カテゴリー

.....

MAC に対する各種抗菌薬の ブレイクポイント			
抗菌薬	MIC(μ g/mL)		
	S(感性)	I(中間)	R(耐性)
SM	≤ 2	4	$8 \leq$
EB	≤ 2	4	$8 \leq$
KM	≤ 2	4~8	$16 \leq$
RFP	≤ 0.5	1~4	$8 \leq$
LVFX	≤ 1	2~4	$8 \leq$
CAM	≤ 8	16	$32 \leq$
TH	≤ 1	2~4	$8 \leq$
AMK	≤ 2	4~8	$16 \leq$

<i>M.kansasii</i> に対する各種抗菌薬の ブレイクポイント		
抗菌薬	MIC(μ g/mL)	
	S(感性)	R(耐性)
SM	≤ 4	$8 \leq$
EB	≤ 2	$4 \leq$
RFP	≤ 0.5	$1 \leq$
CAM	≤ 8	$16 \leq$

MAC: *Mycobacterium avium* と *Mycobacterium intracellulare*

SM: ストレプトマイシン、EB: エタンプトール、KM: カナマイシン

RFP: リファンピシン、LVFX: レボフロキサシン

CAM: クラリスロマイシン、TH: エチオナミド、AMK: アミカシン

(抗酸菌検査ガイド 2016 から引用)

参考文献

.....

日本結核病学会抗酸菌検査法検討委員会(編):抗酸菌検査ガイド 2016,南江堂,2016